

CAGLIERO 11

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.107 - 2017年11月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

世

世界宣教の日の教皇フランシスコのメッセージは私たちの思いと心に今もあります：「世界はイエス・キリストの福音

を切実に必要としています。……幸いにも、福音がもつ変容させる力をあかする意義深い体験がつきることはありません。わたしは、[南スーダンの]ディンカ族のある学生のことを思い起こします。彼は敵対するヌエル族の学生が殺されそうになっているのを見て、その人をいのちがけで守りました。」(世界宣教の日メッセージ5)

私たちはまた、パキスタンで殉教した若いサレジオの同窓生、**アカシュ・バシール**を思い起こします。この若者たちは、福音を喜んで迎え、世界を変えるために貢献したあかし人なのです。



私たちの支部や奉仕の現場に、この若者たち、力強いあかし人がどれほど多くいるか、気づいていますか。私たちの目の前にいて、長い時間、日々、何か月、何年も私たちと共に暮らしています。若者たちの中に、イエスの福音の知識と福音への愛を育み呼び起こすために、私たちが毎日手にしている類まれな機会を無駄にしないようにしましょう - 特に若いサレジオ会員たちの中で。イエスだけが、本当にこの世を変えることができるのです!

J. Basarés

宣教顧問
ギジェルモ・バサニエス神父

アマゾン地方のためのシノドス、サレジオ家族に深く関わるもの

教

皇フランシスコはまたもや私たちを驚かせてくれました。10月15日の日曜日、お告げの祈りの前に次のように発表しました：「ラテン・アメリカのいくつかの司教協議会の願い、また世界各地の司牧者や信徒の声を喜んで受けとめ、パン・アマゾン地域のためのシノドス特別総会を招集します。この特別総会は2019年10月、ローマで開催します。この集いの主な目的は、神の民の中のこの部分、特に先住民族の人々のため、福音宣教の新たな道を特定することです。先住民族は、平和な未来の見通しもないまま、しばしば忘れられています。このテーマが選ばれたのは、私たちの地球のなくてはならない肺であるアマゾン熱帯雨林が危機に直面しているためでもあります。」

このシノドスは、アマゾン熱帯雨林に暮らす諸民族、諸国民について考察するものになります。この人々が暮らすのは9か国に及ぶ地域です：ブラジル(67%)、ペルー(13%)、ボリビア(11%)、コロンビア(6%)、エクアドル(2%)、ベネズエラ(1%)、スリナム、ギアナ、仏領ギアナ(合わせて0.15%)。南米のアマゾン地方には、390の民族、まだ完全に外の世界と結ばれていない137の民族から成る279万7千478人の先住民族が暮らしています。この人々は、歴史的・文化的観点から49の主要言語グループに分類できる240の異なる言語を話します。

このシノドスは、私たちサレジオ家族にとって特別に関わりのあるものです。私たちのアマゾンでの宣教は125年の歴史があります。ブラジル、ベネズエラ、ペルー、エクアドルのアマゾン地帯では、私たちが司牧の最も大きな力となっています。シノドスは、サレジオによるこの地域の歴史的記録、また福音宣教者、サレジオ会員による非常に豊かな文化的・社会的遺産に基づく考察の機会になります。私たちは、シュアール、アチュアル、ポロロス、ハバンテス、ヤノマミ、トゥカノスなどの先住民族の人々の中で働いてきました。私たちに投げかけられている社会的、文化的、環境学的、司牧的な挑戦を分析する必要があります。全教会との交わりのうちに、世界の中のこの地域における私たちの存在を再出発させる機会が与えられることになります。この地域は、そこを領域とする国々だけでなく、地球全体にとって実に重要なのです。

アマゾニアの諸民族の人々と共にある私たち家族への主の計画に積極的に応えることができるよう、福者マリア・トロンカッティ、神の僕ロドルフォ・ルンケンバインとシモン・ボロロがこの日々、私たちと共に歩んでくれますように。



宣教師にとって人々の言葉を身につけるのは欠かせないこと



私

は宣教師になることを本気で考えたことはありませんでした。宣教地で直面するであろう困難を乗り越える自信がなかったからです。宣教地に行くのはほかの人に任せていました。助祭だったとき、韓国の大学生と一緒に短期のボランティア活動のため、カンボジアへ行きました。私たちはプノンペンのドン・ボスコ技術専門学校に滞在しました。このとき、学生の世話をするために自分はここにいるんだと、自分に言い聞かせていました。活動を数日続ける中、学校でほとんどサレジオ会員に会わないことに気づきました。多くのクメールの若者がいて彼らを必要とするカンボジアで、わずかしかなサレジオ会員がいないということに気づいたのです。困窮する多くの若者に私は出会いました。ある考えが脳裏をよぎりました。韓国よりもカンボジアで自分は必要とされているかもしれない、という考えが。韓国管区にはたくさん会員がいるので、自分がいなくても困らないだろうと思いました。私の宣教の熱意は、突発的な衝動ではなかったと思います。実際、困っている人が目の前にいるとき、助けたいと感じるのは自然なことです。私の場合は違っていました。私は3年半の間、宣教の呼びかけを感じ続けまし

た。その時はじめて、宣教師として志願する手紙を総長に書きました。

私にとって最も大きな挑戦はクメール語です。クメール語を正しく話さなければ、ほかのNGOのスタッフと何も変わらず、本当の宣教師ではないと感じています。地元の言葉は福音を告げ知らせるために不可欠な要素です。言葉なしには、私たちの宣教は非常に限られたものになります。英語でなら、学校を事業として運営し、会員と意思疎通できます。信仰の体験をクメールの若者と分かち合うには、彼らの言葉を使う必要があるのです。私にとって最高の喜びはこの若者たちと共にいて、彼らの生活を分かち合い、クメールの人々のうちに私の神と出会うことです。

宣教師の生活を思い浮かべるとき、私たちは見知らぬ土地での数多くの困難を想像しがちです。宣教師になることを避けようとする誘惑に陥ります。本当は、出会う困難を予見することなどできません。出会うあらゆる困難を乗り越えることができると確信して宣教師になる人はいません。私は宣教師として、神に全面的に信頼を置くことを学びました。また、皆が地元の文化からもらった同じ上着を着ていても、宣教共同体は国際的だということも私は理解しました。仲間の宣教師たちの文化をも受け入れなければなりません。さまざまな文化を受容する心を持つことが大切です。このことは、共同体のほかの兄弟会員の文化にも心を開くことを意味します。互いに心が開かれているとき、共同体の中に文化の交わりがあり、私たちはより信頼に足るイエスのあかし人になるのです!



韓国出身、カンボジアの宣教師 マルコ・ヤン神父

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ビエルルイジ・カメローニ神父



尊者マンマ・マルゲリータ(1787 - 1856)はすでに、神の摂理がジョヴァンニを、畑仕事をして生涯をすごすように呼んではいないことに気づいていました。ある朝、ジョヴァンニは夜通し見た不思議な夢の話が家族にしました。たくさん子どもたちの中にいるようだったこと。はじめは、子どもたちがあらゆる野生動物のような姿をしていて、それから羊の群れに変えられていったこと。彼らを草原に連れて行くよう不思議な声に命じられたこと……マルゲリータは息子を見つめながらしばし思いめぐらし、そして言いました。「もしかするといつの日か、お前は司祭様になるかもしれないわね!」この考えは、この良き母の心に刻まれました。マンマ・マルゲリータは、息子の心の最も秘められた傾きも読み取ることができたのです。



サレジオ会の宣教の意向

アジアのサレジオ会員のために

多様性における一致の交わりを築く者となれますように。

アジアの国々のサレジオ家族のために祈ります。隣人と出会うため、いつも自分から先に一步を踏み出すことができますように。若者に、ほかの諸宗教の人々に、心を開いて生きるようになりますように。

そのようにして、ほかの宗教に耳を傾け理解することによって成長し、日常生活の諸宗教対話を育むものとなりますように。

